

ヒタイ暦は中央アジアの暦か？

——『イル・ハーン天文表』に記される中国暦に関する考察——

諫 早 庸 一

本報告はモンゴル治下のイランで著された天文学文献『イル・ハーン天文表 *Zij-i Īlxānī*』の中に見られる中国暦に関するものである。この天文表に記されるヒタイ暦 *Tārīx-i Qitā* は中国暦法に則りながらも、歴代の中華王朝で公式に用いられてきた如何なる暦とも異なることが知られている。そしてそれは従来、この暦が中国のものではなく、「文明の十字路」であった中央アジアを居所として、文字をはじめとする多くの文化的事物をモンゴルに伝えたウイグルのものであったからだとされてきた。ウイグルは中国の暦を受け入れていたが、例えばインドやイランからの影響によってその形態を変容させたというわけである。

この報告のねらいは、ヒタイ暦を現在残っている漢語文献に見られる中国暦と比較し、この暦を伝えた人物について検討することによって、従来の見解を見直すことにある。それにより、当時の東西文化の接触の一面を明らかにしたい。

13世紀初頭のモンゴルによる中央ユーラシア制覇は、中華世界とイスラーム世界との間にあった障壁を取り除き、その結果として様々な領域において両者の文化の接触を引き起こした。天文学・暦学もこうした領域の1つであり、それを象徴するのが『イル・ハーン天文表』における中国暦法の記載である。*Zij* と呼ばれるイスラーム天文表は、アラビア語・ペルシア語でこれ以前にも数多く書かれているが、この『イル・ハーン天文表』において初めて中国暦法が記されることとなる。

『イル・ハーン天文表』にヒタイ暦が記されるようになった経緯について、ラシード・アッディーンは『集史』の第2巻(世界史)に含まれるヒタイ史つまり中国史において、それがイル・ハーン朝創始者フレグの命令によるものであったと伝える。さらに、彼は続く文章で、『イル・ハーン天文表』の著者ナスィール・アッディーン・トゥースィーが *FUMNJI* なるヒタイ人より彼の地の暦法を学び、それを自身の天文表に付け加えたことを記す。

まずヒタイ暦の記述についてであるが、先述の通り、この暦は中国暦法に基づいた太陰太陽暦である。具体的には、月の周期に合わせて1ヶ月を計算しつつも、春分・雨水といった

二十四節気を置くことで太陽年をも考慮し、1年が太陽周期にずれないように2・3年に1度閏月を入れて1年の長さを調節している。『イル・ハーン天文表』において、中国暦法の基本である六十干支や二十四節気をはじめとする専門用語は、中国語を音写する形でアラビア文字表記されている。

ヒタイ暦は、金王朝の後期に用いられ、モンゴル時代の初期にも使われていた重修大明暦に太陽・月の運行周期及び暦元が合致しており、基本的にはこれに基づいたものであることが知られている。しかし、幾つかの重要な点においてヒタイ暦には重修大明暦との差異が見受けられる。それが以下の3点である。

1. 節気と朔望の基準とを冬至以外に求めること
2. 特殊な近点月の数値
3. 万分法の使用

そしてこの3点はいずれも、唐の建中年間に「術者」曹士・によって作成され、従来の暦法を改めたものとして、民間暦ながら中国王朝の正史に記され、金代には経書となっていた符天暦の要素であった。

『イル・ハーン天文表』におけるヒタイ暦が、金代の官暦である重修大明暦と経書であった符天暦の要素を組み合わせたものであったことが明らかになったことで、ナスィール・アッディーン・トゥースィーに中国暦法を教えたとされる FUMNJI についてより具体的な像を描くことが可能となる。母音表記が再現出来ていないことから明らかであるように、ドーソンやニーダム、近年の中国人史家らがこの人物について言及しているものの、そのいずれもこの人物を他の文献に出てくる特定の個人に比定することには成功しておらず、報告者もまた新たな考えを提示するには至っていない。ただし、『集史』の中国史に記される彼の *siksing* 即ち「先生」という号、及び当時のモンゴル王侯が有していた中国内地の投下領、そして金朝期にはじまり、元朝初期に政治力を持った道教集団である全真教とモンゴルとの関わりを考慮すれば、FUMNJI はおそらくフレグが自身の中国の封領から連れてきた、暦を能くする全真教徒であったと思われる。

先行研究がこの暦をウイグルに帰する所以は、直接的にはティムール朝期の天文表がこの暦にウイグルの名を付すことにある。しかし、ティムール朝史料におけるウイグルの語の用法を検討すれば、その名付けがティムール朝期の社会と中国暦法との関わりを反映してのことだと分かる。そして、その状況は『イル・ハーン天文表』が成立した時期に遡りうるものではなかった。

『イル・ハーン天文表』に見られるヒタイ暦の性質及び、それをもたらした人物について考察した結果として明らかになった事実は、イスラーム天文表に記された中国暦に関するこ

れまでの見解の修正を迫る。つまり、『イル・ハーン天文表』に見られるヒタイ暦は、中央アジアが醸成した暦ではなく、中国から直接イランへと移入されたものであった可能性が高いのである。

(神戸大学大学院人文学研究科博士後期課程)